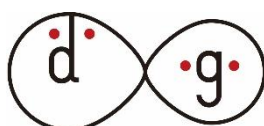


令和 5 年度 （ 2023 年度 ）

講 義 概 要

こころの時代を、ささえる人へ。

[理学療法学科]



ありがとう、と言われること。

電波学園

授業概要			
医療倫理・死学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野口 恵美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 1. 医療にかかわる人としてのあるべき姿について学ぶ 2. 目ざましく進歩する医療を知るとともに、避けることのできない人の生と死について考える機会とする。			
【授業全体の内容の概要】 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわり。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわりを知る。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割を知る。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について考えることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療倫理・死学とは ＊但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて		
3	感染症		
4	医療の安全・事故防止・感染症		
5	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応		
6	情報開示		
7	個人情報の保護		
8	生活習慣病と老人の死		
9	ターミナル期と死をどこで迎えるか		
10	宗教と死		
11	医療の変化		
12	自己の健康管理		
13	地域との連携		
14	リハビリテーションの今後の可能性		
15	試験の返却とまとめ これからの職業人として		
[使用テキスト・参考文献]テキストは使用せず。 参考文献 1. 日本経済新聞の医療・介護に関する記事 2. ダイヤモンド・東洋経済等の週刊誌の特集記事 3. 文芸春秋、NHK きょうの健康等の月刊誌の特集記事 4. 子どもホスピスの奇跡 石井光太 新潮社 5. 国民衛生の動向 2022/2023 (厚生労働統計協会) 6. 感染対策のレシピ 矢野邦夫 (リーダームハウス) 7. 生物はなぜ死ぬのか 小林武彦 (講談社現代新書) 8. 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 井村和清 (祥伝社) 9. いつか来る死 糸井重里、小堀鴎一郎 (マガジンハウス) 10. 詩と死をむすぶもの 谷川俊太郎・徳永進 (朝日新書)		【単位認定の方法及び基準】 出席態度：10% 課題発表とレポート：20% グループワークの発表と記録 10% 期末試験：60% 60%以上で合格。	

授業概要			
心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	増谷 千晶	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助職としての注意点等を理解する。 【授業全体の内容の概要】 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜ心理学を学ぶのか		
2	I C F		
3	心理学の歴史		
4	応用心理		
5	概念のしくみ		
6	学習		
7	記憶		
8	言語		
9	社会心理		
10	青年期・成人期・老年期		
11	知覚		
12	注意・認知		
13	動機づけ		
14	発達理論		
15	全体的なまとめ		
【使用テキスト・参考文献】 リハベーシック 心理学・臨床心理学		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60%以上合格	

授業概要			
統計学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	福本 久人	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】 統計学に関する基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的としている。 【授業全体の内容の概要】 業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法について、基礎的な概念や考え方を学ぶ。 講義で扱う例題には、医療分野に関連した事例を多く取り入れている。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 実際の業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法が扱えるようになる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	統計学の概要		
2	基本統計量		
3	度数分布表・ヒストグラム・演習①		
4	散文度・演習②		
5	演習③		
6	相関・相関係数		
7	演習④		
8	正規分布		
9	演習⑤		
10	検定・演習⑥		
11	検定方法の判断基準		
12	帰無仮説と対立仮説・演習⑦		
13	T 検定・P 値・T 統計値・有意水準		
14	T 検定・対応のない T 検定		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 統計入門		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
情報処理	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	阪 浩一・丹羽 隆仁	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達とWeb利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技能を習得する。 【授業全体の内容の概要】 理学療法士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ワープロ、表計算、Web（インターネット検索・e-Mail）操作。ホームページ作成、プレゼンテーションツールの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコンの操作 1		
2	電子メールの基礎		
3	ワープロの基礎 1		
4	ワープロの基礎 2		
5	ワープロの基礎 3		
6	ワープロの基礎 4		
7	ワープロの基礎 5		
8	ワープロの基礎 6		
9	ワープロの基礎 7		
10	表計算の基礎 1		
11	表計算の基礎 2		
12	表計算の基礎 3		
13	表計算の基礎 4		
14	プレゼンテーションツールの活用 1		
15	プレゼンテーションツールの活用 2		
【使用テキスト・参考文献】 windows10 対応 30 時間でマスター o f f i c e 2016		【単位認定の方法及び基準】 （試験やレポートの評価基準など） ・学則第16条の1、2、3、4、5項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率 40%，定期試験 60% 上記比率の下、60 点以上のものを合格として単位認定	

授業概要			
生物学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	加藤 清己	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法・作業療法学科において，解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり，それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 解剖学・生理学の基礎として生物学の幅広い分野を体系的に理解する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 生物学の理解力が医学系専門知識の基礎として応用・発展できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生物の概念、多様性と一様性		
2	細胞の構造と機能、細胞膜		
3	生体物質、酵素		
4	メンデル遺伝、ヒトの遺伝		
5	遺伝子		
6	タンパク質合成(1)		
7	タンパク質合成(2)		
8	心臓、血液		
9	肝臓と腎臓		
10	神経系		
11	ホルモン、血糖量・体温調整		
12	生体防御(1)		
13	生体防御(2)		
14	要点のまとめと復習		
15	テストの解答と解説		
【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト 系統看護学講座 基礎3 生物学 参考文献 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野生理学		【単位認定の方法及び基準】 試験80点＋平常点20点、60点以上合格	

授業概要			
英語	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法で用いる基本的な医学英語の習得 【授業全体の内容の概要】 解剖学での専門用語 位置、方向、骨、筋、リハビリテーションで用いる略語を中心に学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理学療法で用いる骨、筋などの専門用語を英語で記載できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 日本の医療制度 医療用語の法則 1		
2	解剖学用語、面、位置、方向、系統、領域		
3	解剖学用語、骨の結合様式、運動 身体の部位名		
4	骨格と関節 上肢 下肢		
5	骨格と関節 筋収縮		
6	筋系 体幹 上肢 下肢		
7	専門用語 略語		
8	総復習		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 講義配布資料		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（出席 5 点，授業態度 5 点，課題 5 点，小テスト 5 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
健康と運動	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介・尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 心身の健康についての理解を深め、自らの健康管理を考えることを目的とする。また、身体・精神面に与える各種運動の特性を知る。 【授業全体の内容の概要】 医療の観点から、心身の健康について学び、実際にレクリエーションや障害者スポーツを体験する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 健康で安全に留意する能力を身に付け、グループで協力して実施できる能力を習得する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・総論（講義）		
2	現代社会と健康（講義）		
3	運動と健康（講義）		
4	レクリエーションについて（講義）		
5	レクリエーション（グループ学習①）		
6	レクリエーション（グループ学習②）		
7	レクリエーション（グループ学習③）		
8	レクリエーション発表（実技①）		
9	レクリエーション発表（実技②）		
10	レクリエーション発表（実技③）		
11	レクリエーション発表（実技④）		
12	障がい者スポーツについて（講義）		
13	ボッチャ（実技①）		
14	ボッチャ（実技②）		
15	振り返り		
【使用テキスト・参考文献】 実技の際は、ジャージなど体を動かせる服に着替えること。		【単位認定の方法及び基準】 発表 80%、平常点（出席・授業態度） 20% 60 点以上合格	

授業概要			
総合学習論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60	1年・前期・後期	必修
[授業の目的・ねらい] 専門科目を学習していく上で必要な読解力, 表現力, 基礎知識を養う. 病理学を学ぶことにより, 疾患について総合的な知識と応用力を養っていく. OSCE では、実習に向けての準備を行う. [授業全体の内容の概要] 基礎科目の理解と専門科目への備えとして, 文章読解力・分析力・作成力・伝達力の向上をはかり, 基礎科目の再確認をする. [授業終了時の達成課題(到達目標)] 理学療法の礎となる学びを深め、実習に備える.			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	学力テスト		
3	文章力①		
4	文章力②		
5	文章力③		
6	文章力④		
7	病理学 1		
8	病理学 2		
9	病理学 3		
10	病理学 4		
11	病理学 5		
12	病理学 6		
13	病理学 7		
14	OSCE①		
15	OSCE②		
16	病理学 8		
17	病理学 9		
18	病理学 10		
19	病理学 11		
20	病理学 12		
21	病理学 13		
22	病理学 14		
23	病理学 15		
24	OSCE③		
25	OSCE④		
26	OSCE⑤		
27	OSCE⑥		
28	OSCE⑦		
29	OSCE⑧		
30	OSCE⑨		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
医学書院eテキスト 病理学 PT・OT のための臨床技能と OSCE 第 2 版補訂版		試験 80 点, 平常点 20 点(授業態度 10 点, 課題 10 点) 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	高橋 裕介	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 患者・利用者との良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論を学ぶ。 理学療法士が狭い経験や専門性のみに依拠せずに、広く人間を捉え謙虚に学び続けることを基礎とする。そして、その上に“医療の目”を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、医療における倫理的課題について考えさせる。併せて、人間として必要なコミュニケーションの基礎を身につける。 【授業全体の内容の概要】 人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、活動の場に観る人間関係を知り、コミュニケーションの構成要素、態様を捉え、技法演習を通して自らのコミュニケーション能力を認識する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 コミュニケーションの構造を理解し、理学療法士として活動する場における自己のコミュニケーション上の課題を見出す。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人間らしさのはじまり		
2	主体の構造（意識と無意識）		
3	「発達」「社会性」からみた人間関係（１）		
4	「発達」「社会性」からみた人間関係（２）		
5	人間関係とストレス		
6	コミュニケーションの構造・手段（１）		
7	コミュニケーションの構造・手段（２）		
8	コミュニケーションの構造・手段（３）		
9	理学療法士のコミュニケーション（病院・施設における場合）		
10	理学療法士のコミュニケーション（在宅における場合）		
11	組織におけるコミュニケーション（１）		
12	組織におけるコミュニケーション（２）		
13	組織におけるコミュニケーション（３）		
14	演習		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 適宜資料を配布する。		【単位認定の方法及び基準】 定期試験により 60%以上を合格とする。	

授業概要			
解剖学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重 香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。			
【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用（人体のあらまし）について理解できる。神経系（中枢神経、末梢神経）脈管系（心臓、全身の動脈、静脈）について説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法 解剖学 第 5 版」医学書院、 「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験、60 点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。	

授業概要			
解剖学Ⅱ（骨格・関節靱帯）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士として欠かせない骨格・関節靱帯の解剖を中心に，人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 医療従事者として欠かすことのできない解剖学（骨格・関節靱帯）について，人体構造の把握や位置関係、機能を理解し学習する。また、講義に小テストを取り入れていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 骨・関節靱帯では、人体構造を3次元的に理解し、部位の名称を正確に学習する。 また、人体における内部構造の指標となる体表部位を理解し説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	解剖学総論		
2	骨格系総論		
3	脊柱①		
4	脊柱②		
5	上肢①		
6	上肢②		
7	上肢③		
8	骨盤		
9	下肢①		
10	下肢②		
11	下肢③		
12	頭蓋		
13	関節構造と機能		
14	関節と靱帯		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準理学療法・作業療法 解剖学 第5版」医学書院、		試験 80 点，平常点 20 点（小テスト 20 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
解剖学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	畑山 直之・福重香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。 【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治癒など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 感覚器系（体性感覚・特殊感覚）、消化器系（消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道、肺）、泌尿器系（腎臓、尿路）、生殖器（男性、女性生殖器）について説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	泌尿器①		
2	泌尿器②		
3	生殖器①		
4	生殖器②		
5	呼吸器①		
6	呼吸器②		
7	呼吸器③		
8	消化器①		
9	消化器②		
10	消化器③		
11	消化器④		
12	感覚器①		
13	感覚器②		
14	感覚器③		
15	感覚器③		
【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法 解剖学 第5版」医学書院、 「機能解剖で斬る神経系疾患」木元省美堂		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験、60 点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。	

授業概要			
解剖学Ⅳ（筋系・神経系）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士として欠かせない筋・神経系の解剖を中心に，人体構造の把握とその機能について学習することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 筋学・神経学の総論を講義した後，それぞれの筋・神経の位置関係，機能を理解し，学習する。また，講義に小テストを取り入れていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 筋学では，体幹・上肢・下肢の必要筋群を理解し，その位置関係・作用等が説明できることを目標とする。また，神経学では，中枢神経・末梢神経の解剖学的役割を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	筋系 総論①		
2	筋系 総論②		
3	体幹筋群について①		
4	体幹筋群について②		
5	上肢筋群について① 肩関節周囲筋		
6	上肢筋群について② 上腕部周囲筋		
7	上肢筋群について③ 前腕部周囲筋		
8	上肢筋群について④ 手部周囲筋		
9	下肢筋群について① 股関節周囲筋		
10	下肢筋群について② 大腿部周囲筋		
11	下肢筋群について③ 下腿周囲筋		
12	下肢筋群について④ 足部周囲筋		
13	末梢神経について①		
14	末梢神経について②		
15	まとめ 総復習		
【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法・作業療法 解剖学 第 5 版」医学書院、 「骨格筋の形と触察法 第 2 版」大峰閣		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（小テスト 20 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
解剖学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	洪澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 1 年前期で学習した解剖学を三次元的に理解する。 【授業全体の内容の概要】 人体各部のイラストに彩色することにより，組織や器官の相互関係を把握し，三次元的な構造を理解する。組織器官の機能についても解説し理解を深める。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 骨格筋・関節の名称や位置関係を理解し，それらを三次元的にイメージできることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のオリエンテーション		
2	細胞と組織 外皮系		
3	骨格と関節		
4	骨格と関節 上肢		
5	骨格と関節 下肢		
6	筋系 頭頸部		
7	筋系 体幹		
8	筋系 上肢		
9	筋系 下肢		
10	神経系		
11	中枢神経		
12	末梢神経		
13	心血管系Ⅰ		
14	心血管系Ⅱ		
15	心血管系Ⅲ		
16	リンパ系		
17	免疫系		
18	呼吸器系		
19	消化器系		
20	泌尿器系		
21	内分泌系		
22	人体の発生		
23	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 医学書院 e テキスト 解剖学 彩色用資料配付 彩色用の色鉛筆など用意すること		【単位認定の方法及び基準】 授業終了後に彩色資料を含むノート提出(課題) 出席 20 点, 授業態度 20 点, 課題 60 点 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
機能解剖学Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	八木佑介・渋澤里香・尾関直洋・藤原美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士に必要な触察について学習する。 【授業全体の内容の概要】 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理学療法士において必要な触察技術を身につけることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	肩甲骨		
3	僧帽筋		
4	肩甲挙筋 小菱形筋 大菱形筋 広背筋		
5	頭板状筋 頸板状筋		
6	腸肋筋 最長筋 腰方形筋 頭半棘筋		
7	胸鎖乳突筋 前斜角筋 中斜角筋 前鋸筋		
8	大胸筋 小胸筋		
9	腹直筋 外腹斜筋 内腹斜筋		
10	中間復習		
11	中間復習		
12	三角筋		
13	棘上筋 棘下筋 小円筋		
14	大円筋 肩甲下筋		
15	上腕二頭筋 烏口腕筋		
16	上腕筋		
17	上腕三頭筋		
18	円回内筋		
19	橈側手根屈筋 長掌筋 尺側手根屈筋		
20	浅指屈筋 深指屈筋 長母指屈筋 方形回内筋		
21	総復習		
22	総復習		
23	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウェットティッシュも各自用意すること		【単位認定の方法及び基準】 実技試験 40 点, 小テスト 40 点, 口頭試問 20 点 , 60 点以上合格	

授業概要			
機能解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	八木佑介・渋澤里香・尾関直洋・藤原美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士に必要な触察について学習する。 【授業全体の内容の概要】 筋肉・骨・神経・血管について、実習する。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理学療法士において必要な触察技術を身につけることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	腕橈骨筋		
2	長橈側手根伸筋 短橈側手根伸筋		
3	肘筋 尺側手根伸筋小指伸筋 総指伸筋		
4	回外筋 長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 示指伸筋		
5	腸骨筋 大腰筋		
6	寛骨①		
7	大殿筋		
8	中殿筋後部 小殿筋		
9	梨状筋 内閉鎖筋 上双子筋 下双子筋 大腿方形筋 外閉鎖筋		
10	大腿筋膜張筋 中殿筋(前部)		
11	縫工筋		
12	大腿四頭筋		
13	大腿二頭筋		
14	半腱様筋 半膜様筋		
15	薄筋 長内転筋 大内転筋		
16	前脛骨筋 長趾伸筋 第三骨筋 長母趾伸筋		
17	長腓骨筋 短腓骨筋		
18	腓腹筋		
19	ヒラメ筋		
20	長趾屈筋 長母趾屈筋 後脛骨筋		
21	総復習		
22	総復習		
23	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 骨格筋の形と触察法 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること		【単位認定の方法及び基準】 実技試験 40 点, 小テスト 40 点, 口頭試問 20 点 , 60 点以上合格	

授業概要			
生理学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調整されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を目ざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは大事である。 【授業全体の内容の概要】 生理学 I では、神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 神経系、筋系、骨格系、感覚系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学総論：生理学とは、身体の階層性（組織，器官，器官系），生命現象（エネルギー産生）		
2	生理学総論：水（体液，浸透圧），ホメオスタシスと負のフィードバック		
3	細胞の構造と機能：細胞膜，核，細胞小器官		
4	細胞の構造と機能：静止電位と活動電位		
5	神経の興奮伝導と末梢神経：神経細胞の構造，興奮の発生と伝導，末梢神経の種類		
6	神経の興奮伝導と末梢神経：自律神経		
7	神経の興奮伝導と末梢神経：シナプスにおける興奮の伝達		
8	中枢神経系：中枢神経とは，脊髄，脊髄反射		
9	中枢神経系：脳幹，小脳，間脳，大脳皮質		
10	中枢神経系：脳の高次機能，大脳基底核と脳梁，辺縁系，脳室と脳脊髄液		
11	筋と骨：筋の分類，骨格筋（構造，神経による支配，興奮収縮連関，骨格筋の収縮）		
12	筋と骨：骨格筋（骨格筋線維の種類，肥大と萎縮，筋紡錘と Golgi 腱器官，筋電図）		
13	筋と骨：心筋，平滑筋，骨		
14	感覚：感覚とは，体性感覚（皮膚感覚，深部感覚），内臓感覚		
15	感覚：特殊感覚（視覚，聴覚と平衡感覚，味覚，嗅覚）		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第 5 版		筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
生理学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	宮津 真寿美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年 後期	必修
【授業の目的・ねらい】 生理学とはどのような仕組みで私たちの体が正常に機能しているのかを追求する学問である。人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調整されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を目ざすにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは大事である。 【授業全体の内容の概要】 生理学Ⅰでは、循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官において、我々の体がどのように機能しているかを学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 循環系、呼吸系、消化器系、内分泌系などの動物性器官における各器官の特徴と機能が説明できる。 器官内、器官間の調節機能が説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	血液：血液の組織と機能，赤血球（形態，数，酸素の運搬，溶血，貧血）		
2	血液：白血球（分類と機能，防御機構），血小板（形態と機能，凝固，線溶），血漿（電解質，グルコース，血漿タンパク質），血液型		
3	心臓と循環：血液の循環，心臓の興奮と刺激伝達系		
4	心臓と循環：心電図（導出法，Einthoven の正三角形と電気的心軸，波形異常）		
5	心臓と循環：血液の拍出と血圧，心周期，前負荷・後負荷と収縮性		
6	心臓と循環：血圧の調整（筋原性，液性，自律神経，腎臓），微小循環と物質交換，静脈還流，臓器循環，リンパ循環		
7	呼吸：外呼吸と内呼吸		
8	呼吸：ガス交換とガス運搬，呼吸の調整，病的呼吸		
9	尿の生成と排泄：腎臓の役割，腎臓の構造，尿の生成		
10	尿の生成と排泄：クリアランス，排尿，尿の性状と排尿異常		
11	酸塩基平衡：血漿の pH 調整，アシドーシスとアルカローシス		
12	消化と吸収：消化器の役割，口腔内消化と嚥下，食道，胃		
13	消化と吸収：十二指腸，回腸・空腸，大腸，肝臓		
14	内分泌：ホルモンの役割，種類，分泌調整，各腺から分泌させるホルモン		
15	代謝と体温，生殖と発生・成長と老化：栄養素，エネルギー代謝，体温，男性生殖機能，女性生殖機能，受精・着床胎児の発達		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 生理学第 5 版		筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
生理学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 神経と骨格筋の各々の働きを、実際に自分の目で観察することにより、その性質を理解すること 【授業全体の内容の概要】 各実習項目を行う前にその目的と基礎知識を得るための講義を行う 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 神経と骨格筋の各々の働きを実際に自分の目で観察する事により理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学実習総論		
2	心電図①		
3	心電図②		
4	呼吸器系①		
5	呼吸器系②		
6	心肺運動負荷試験①		
7	心肺運動負荷試験②		
8	マイオモーション①		
9	マイオモーション②		
10	筋電図		
11	重心動揺計①		
12	重心動揺計②		
13	体圧分散①		
14	体圧分散②		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 資料配布		【単位認定の方法及び基準】 レポート課題 60 点以上合格。	

授業概要			
運動学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 生体の平衡状態維持する器官系のうち骨格系，筋系および神経系を理解する。 【授業全体の内容の概要】 運動学の諸原理は，解剖学，生理学および物理学から得られているとされる。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 生体の平衡状態維持する器官系のうち骨格系，筋系および神経系を理解し説明ができることを目標とする			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	記憶（運動学習）		
2	細胞、エネルギー生成		
3	組織、骨の構造と機能		
4	骨のホルモン・ビタミン		
5	関節		
6	筋線維		
7	興奮収縮連関		
8	筋の種類		
9	筋収縮性質		
10	神経系（伝導、神経の種類、末梢神経）		
11	大脳		
12	間脳、小脳		
13	基底核、脳幹		
14	脊髄、伝導路		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学 参考文献 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 生理学 基礎運動学		【単位認定の方法及び基準】 授業態度 5% 出席状況 5% 期末試験 90% 60%以上合格	

授業概要			
運動学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	岡本 美幸	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 人間が当たり前に行っている、歩く・立ち上げるなどの動作を、骨格筋や関節などの解剖的構造から、運動力学・神経系システムの運動制御・骨格のメカニズム等を学習することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 姿勢・歩行を中心に、関節の動きや機能を運動学的観点から学習する。講義は教科書や配布資料、また必要に応じて PowerPoint を利用しながら進めていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 前期で学習した解剖・生理・運動学を基に、ヒトの動きを運動学的観点から考察できることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	関節の構造と種類		
2	上肢帯と上肢の運動①		
3	上肢帯と上肢の運動②		
4	上肢帯と上肢の運動③		
5	上肢帯と上肢の運動④		
6	上肢帯と上肢の運動⑤		
7	下肢帯と下肢の運動①		
8	下肢帯と下肢の運動②		
9	下肢帯と下肢の運動③		
10	下肢帯と下肢の運動④		
11	体幹の運動①		
12	体幹の運動②		
13	姿勢・重心について		
14	歩行周期について		
15	まとめ 総復習		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学 基礎運動学		試験 90 点，平常点 10 点（出席 5 点，授業態度 5 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
運動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 教科書で学んだ人体の構造と機能を基に、実習をすることで評価の体験、実験データの解析および統合と解釈の流れを学ぶ 【授業全体の内容の概要】 グループで実験を行い、実験データから必要な情報を導き出し、各々の解釈をまとめ発表する 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 実験データから必要な情報を導き出し、各々の解釈をまとめ発表することができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	実習前講義・オリエンテーション		
2	実習 1 上肢の運動①		
3	実習 2 上肢の運動②		
4	実習 3 上肢の運動③		
5	実習 4 上肢の運動④		
6	実習 5 下肢の運動①		
7	実習 6 下肢の運動②		
8	実習 7 下肢の運動③		
9	実習 8 姿勢・重心・バランス①		
10	実習 9 姿勢・重心・バランス②		
11	実習 10 起居動作・歩行①		
12	実習 11 起居動作・歩行②		
13	実習 12 運動負荷①		
14	実習 13 運動負荷②		
15	発表・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学基礎分野 運動学 基礎運動学 実習が行いえる服装（短パン，T シャツなど）を準備すること。（準備ができていない者は受講できない）		【単位認定の方法及び基準】 授業態度 20% 出席状況 20% 課題 60% 60%以上合格	

授業概要			
人間発達学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 人間発達を生涯発達という視点で，胎生期から老年期に至るまでの発達段階ごとに，それぞれの身体，運動，認知機能，社会生活，心理面等での発達の特徴，課題を理解する．その中で定型発達についての知識を得ることで，臨床場面で出会う多様な個人を発達という観点から理解できるようにする． 【授業全体の内容の概要】 人間の発達をそれぞれの時期に分け，その時期での定型発達を学ぶ．また，自身の発達を振り返り，自分の家族や自分を取りまく状況を見つめなおすことでより具体的に人間発達を学ぶ． 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人間の発達における定型発達を理解し，臨床場面で出会う対象者を発達という観点から理解し，多様性のある中でもそれぞれの個人の発達特徴・発達課題について考えられるようにする．			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	発達とは。発達理論		
2	胎生期の発達		
3	新生児期の発達		
4	乳児期の発達①		
5	乳児期の発達②		
6	幼児期の発達①		
7	幼児期の発達②		
8	幼児期までに出現する発達上の問題		
9	発達検査		
10	児童期、青年期の発達		
11	児童期から思春期の心の問題		
12	成人期の発達		
13	老年期の発達		
14	老年期の問題		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 「人間発達学」		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70 点 平常点 30 点（レポート課題） 60 点以上合格	

授業概要			
臨床心理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	森 明美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を個別に理解し、どのように関わっていけばいいかを考える機会とする。 【授業全体の内容の概要】 誰にでも起こりうる「こころの問題」を理解するために、人格理論、心理アセスメントについて学ぶ。また対象者にアプローチする方法として様々な心理療法についての知識を得る。同時に自己理解を深めていけるように、心理アセスメントなどの演習も行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助職に必要な人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	臨床心理学とは		
2	フロイトの理論 防衛機制		
3	防衛機制 障害の受容		
4	心理アセスメント①		
5	心理アセスメント②		
6	心理アセスメント③（演習）		
7	神経症とは		
8	パーソナリティ障害・精神障害		
9	発達障害		
10	心理療法①心理療法の基本態度		
11	心理療法②行動的		
12	心理療法③内面的		
13	心理療法④演習		
14	心理療法⑤相談的		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法・作業療法学 「臨床心理学」 リハベーション 心理学・臨床心理学		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 80 点+平常点（レポート課題）20 点 60 点以上合格	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 内科学系を学ぶにあたって大切なことは「概念」を理解することです。概念を理解するためにはその元となる基本的な知識（解剖学などの基礎医学的知識）が必要となります。1 年生の段階では内科学と並行して基礎医学的な知識を習得するように心がけてください。本講義では内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」などを中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。質問等は講義中または講義終了後に随時発言してください。 また折に触れて、皆さんが成長するための「社会人としての心構え」を助言していきます。本講義を通じて共に学び成長していきましょう。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 その他 ①在学中に「一次救命講習（CPR と AED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第 4 章（循環器疾患・総論）		
2	第 4 章（循環器疾患・各論）		
3	第 5 章（呼吸器疾患・総論）		
4	第 5 章（呼吸器疾患・各論）		
5	第 9 章（代謝性疾患）		
6	第 10 章（内分泌疾患）		
7	第 11 章（腎泌尿器疾患）		
8	試験解説および総括		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 大成浄志「標準理学療法学・作業療法学 内科学 第 4 版」 医学書院 必要時に資料配布や文献紹介を加えます		【単位認定の方法及び基準】 期末科目試験をもとに総合的に評価します。60 点以上合格 ※事前の予習状況や講義中の積極性を総合評価に加味します。	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5 回	10	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。 白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。 血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。 鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。 造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。			
【授業全体の内容の概要】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能		
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫		
3	出血性疾患と血栓性疾患		
4	貧血		
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学 内科学 参考文献：1. わかりやすい内科学 2. 老年医学テキスト		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	堀米 秀夫	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
5 回	10	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 内科学の概念を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 内科学の概念から消化器系の内科疾患を近年の現状を踏まえながら授業を進める 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 内科学の概念を学び、リハビリテーション施行時の事前知識や対応について理解する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	消化器総論，上部消化管		
4	下部消化管，胆，膵		
5	肝，胃ろう		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学 内科学		定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
整形外科学 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	小出 敬之・水谷 陽子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり，脊椎，脊髄，体幹，上肢，下肢にわたり，あつかう組織は骨，筋腱，靱帯，関節，神経におよぶ．それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患，変性疾患，外傷，炎症，腫瘍等の病的理解，治療法につき講義を行う． 【授業全体の内容の概要】 整形外科基礎，画像診断，関節リウマチ，上下肢の関節疾患，腫瘍，感染症などについて講義を行う． 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 整形外科基礎および各疾患の病態，治療法について理解する．			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	外傷学 総論		
2	外傷学 各論		
3	スポーツ損傷		
4	脊椎・脊髄損傷		
5	整形外科的基礎（骨・関節・筋・神経系の基本構造・病態整理）		
6	痛みの生理、各種画像法（MRI まで）		
7	画像検査		
8	骨・関節感染症		
9	関節リウマチ他		
10	骨・関節の感染症、慢性関節疾患		
11	骨壊死、先天性骨系統疾患		
12	骨粗鬆症など、骨腫瘍		
13	骨・軟部疾患		
14	脳・神経疾患		
15	整形外科一般（まとめ）		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準整形外科学		定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
整形外科学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	寺本 隆・水谷 陽子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 整形外科は運動器の疾患をあつかう科であり，脊椎，脊髄，体幹，上肢，下肢にわたり，あつかう組織は骨，筋腱，靱帯，関節，神経におよぶ．それぞれの部位ごとに機能解剖および先天疾患，変性疾患，外傷，炎症，腫瘍等の病態理解，治療法について学ぶ． 【授業全体の内容の概要】 整形外科の基礎知識と関連事項 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記目的・ねらいの達成			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	肩関節疾患・肘関節疾患		
2	肘関節疾患、手関節疾患		
3	手関節疾患、股関節疾患		
4	股関節疾患、膝関節疾患		
5	膝関節疾患、足関節疾患		
6	足関節疾患		
7	先天性骨・関節疾患		
8	熱傷		
9	切断及び離断		
10	運動器のリハビリテーション 1		
11	運動器のリハビリテーション 2		
12	脊椎・脊髄の解剖，診察，疾患総論		
13	頸椎・胸椎疾患，RA，側彎症		
14	脊椎感染症，腰椎疾患，脊椎・脊髄腫瘍		
15	脊椎・脊髄損傷，まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準整形外科学		定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
神経内科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	篠崎 仁史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。 【授業全体の内容の概要】 指定のテキストに沿って講義を進める。また、近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していく 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①在学中に「一次救命講習（CPR と AED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	第 1 章：障害とリハビリテーションプログラム 第 2 章：中枢神経系の解剖と機能		
2	第 3 章：神経学的診断と評価 第 4 章：神経学的検査法（画像診断含む）		
3	第 5 章：意識障害、脳死、植物状態 第 6 章：頭痛、めまい、失神		
4	第 7 章：運動麻痺、錐体路徴候、筋委縮 第 8 章：錐体外路徴候、不随意運動 第 9 章：運動失調		
5	第 10 章：感覚障害 第 24 章：脊髄疾患		
6	第 11 章：高次脳機能障害：総論/失語症 第 12 章：高次脳機能障害：失認 第 13 章：高次脳機能障害：失行 第 14 章：高次脳機能障害：記憶障害 第 15 章：高次脳機能障害：注意障害 第 16 章：高次脳機能障害：遂行（実行）機能障害		
7	第 17 章：構音障害 第 18 章：嚥下障害 第 19 章：脳神経外科領域疾患の代表的症候		
8	第 20 章：脳血管障害 第 23 章：外傷性脳損傷（軸索障害を含む）		
9	第 21 章：認知症		
10	第 25 章：変性疾患（錐体外路系を除く） 第 26 章：錐体外路の変性疾患		
11	第 27 章：末梢神経障害 第 28 章：てんかん 第 29 章：筋疾患		
12	第 30 章：感染症疾患 第 31 章：中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患 第 32 章：小児神経疾患		
13	第 33 章：廃用症候群と誤用症候群、合併症 第 34 章：排尿障害 第 35 章：性機能障害		
14	補足事項・総まとめ		
15	科目試験解説および総括		
【使用テキスト・参考文献】 『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 』 資料配布や文献紹介を随時加えます。		【単位認定の方法及び基準】 平常点および期末科目試験を総合的に評価し、必要時に再試験，課題等。 総評 60 点以上を合格とする。※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします。	

授業概要			
脳神経外科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	山田 宣夫	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 神経の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症状、兆候、診断、治療を学ぶ。			
【授業全体の内容の概要】 中枢神経系、末梢神経系の障害は理学療法士、作業療法士にとり対象疾患として整形外科疾患と共に多くを占めるものである。これらの疾患を理解することは治療に必須のものである。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 神経障害の広範な知識により、国試の関連問題を正解に導く力をつけること。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	中枢神経系の解剖と機能		
2	神経学的検査法		
3	神経症候学（1）意識覚醒レベル		
4	神経症候学（2）錐体路徴候		
5	脳血管障害		
6	頭部外傷、血腫		
7	運動ニューロン障害復習		
8	中間テスト		
9	神経症候学（3）錐体外路徴候		
10	脱髄・変性疾患		
11	感染・炎症性疾患（脳炎、髄膜炎）		
12	末梢神経・筋の障害		
13	脳腫瘍		
14	認知症		
15	試験解説		
【使用テキスト・参考文献】 標準脳神経外科学		【単位認定の方法及び基準】 中間テスト 50 点 期末テスト 50 点 合格 60 点以上	

授業概要			
精神医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	深津 尚史	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 精神障害の分類や症状、診断・評価など精神医学の基礎知識の習得を目的とする 【授業全体の内容の概要】 精神医学総論・各論の全般的な講義を行う 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 精神障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	神経心理的症状（意識・記憶・失語など）		
2	認知症		
3	てんかん		
4	症状性精神障害		
5	薬物依存・アルコール関係		
6	統合失調症		
7	気分障害		
8	不安性障害・ストレス関連障害		
9	解離性障害・心身症		
10	パーソナリティ障害・摂食障害		
11	睡眠障害		
12	発達障害		
13	精神療法 その 1（精神分析・来談者中心療法・心理検査）		
14	精神療法 その 2（認知行動療法）		
15	精神保健福祉法と医療観察法		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学 精神医学		【単位認定の方法及び基準】 定期試験，60 点以上合格。	

授業概要			
小児科学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う。 【授業全体の内容の概要】 小児科の基礎知識と関連事項 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記、目的・ねらいの達成			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③＋診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他		
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）		
15	試験解説，講義の総括・補足		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学		定期試験 60 点以上合格。	

授業概要			
老年学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	伊藤 知美	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 老年学の概念を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法・作業療法 老年学／医学書院		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格。	

授業概要			
薬理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	2 年・前期	必修
[授業の目的・ねらい] [授業全体の内容の概要] 本講義では理学療法士や作業療法士において必要な薬理学の知識習得を目的として、指定テキストの内容に準じて講義を進めます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても助言等を加えながら随時補足していきます。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] その他 ①在学中に「一次救命講習（CPR と AED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	薬理学総論（薬理学の概要）		
2	薬理学総論（薬の体内動態と薬理作用）		
3	薬理学総論（薬物療法の基礎）		
4	臨床薬理学（神経疾患・神経疾患の薬物療法）		
5	臨床薬理学（循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の薬物療法）		
6	臨床薬理学（疼痛の制御・注意すべき薬物）		
7	重要事項の確認（要点 Check）		
8	科目試験解説および総括		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献] 内山，他「薬理学・臨床薬理学 第1版」医歯薬出版 資料配布や文献紹介を随時加えます。		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60 点以上合格。	

栄養学	授業の種類	授業担当者		実務経験の有無
	講義			有
授業の回数	時間数		配当学年・時期	必修・選択
8回	16		2年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 栄養学は、食品の持つ栄養素やその働きについて学ぶ学問である。すなわち、食品が有する栄養素が分解され、消化管からの吸収、脂質代謝、食事摂取と運動について理解する。				
【授業全体の内容の概要】 栄養素の構造と機能を理解するために化学的な基礎知識と消化と吸収を理解するために人体の構造と機能を解剖学的・生理学的に学習する。				
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動や活動に必要なエネルギー量と栄養素を理解し、身体機能の改善、活動や社会参加の向上及び健康観の改善することができる。				
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法				
回	内容・備考			
1	栄養学総論			
2	蛋白質とアミノ酸			
3	糖質と脂質			
4	ビタミン エネルギー			
5	消化と吸収			
6	運動と栄養 リハビリと栄養			
7	主な病態の栄養管理			
8	静脈 経腸栄養 まとめ			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
【使用テキスト・参考文献】 「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学」医学書院 「リハベーシック 生化学・栄養学」医歯薬出版株式会社			【単位認定の方法及び基準】 定期試験により 60%以上を合格とする	

授業概要			
健康支援学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 救急救命や予防領域に関する基礎的知識の習得を目的とする。 【授業全体の内容の概要】 救命処置を演習を通し学び、予防領域の基礎知識・グループ発表を通し、理学療法士が行える予防理学療法について理解を深めていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記目的・ねらいの達成			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	一次救命処置 講義		
2	一次救命処置 演習①		
3	一次救命処置 演習②		
4	予防理学療法		
5	高齢期の予防理学療法		
6	地域における予防理学療法		
7	予防領域 グループワーク①		
8	予防領域 グループワーク②		
9	予防領域 グループワーク③		
10	予防領域 グループ発表①		
11	予防領域 グループ発表②		
12	予防領域 グループ発表③		
13	予防領域 グループ発表④		
14	予防領域 グループ発表⑤		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 資料配布		【単位認定の方法及び基準】 グループ発表点 90 点、 平常点 10 点（出席点・授業態度・感想文）	

授業概要			
地域医療学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齋木 寛	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 地域医療の実践を紹介し，地域リハビリテーション，災害地の医療，老年医療のあり方等を学習する． 【授業全体の内容の概要】 地域医療を実践しているプライマリケア医を紹介するとともに，その医療に必要な家庭医療医学，老年医療学，リハビリテーション医学などを講義する． 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域医療の方法や概念を学習し，その実際を理解する．			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	地域医療学 総論 （自己紹介・医療崩壊）		
2	地域医療学 総論 （地域医療の実際の紹介①）		
3	地域医療学 総論 （地域医療の実際の紹介②）		
4	地域医療学 総論 （地域リハビリテーション）		
5	地域医療学 （地域リハビリ，訪問リハビリの実際）		
6	地域医療学 （災害地の医療・訪問診療の実際/肺炎について）		
7	地域医療学（他職種連携・老年医療のあり方①）		
8	地域医療学（他職種連携・老年医療の在り方②）		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 参考文献 「地域医療テキスト」 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」 「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
リハビリテーション医学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	齊木 寛	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学の歴史および本質について理解できるようにする。 【授業全体の内容の概要】 リハビリテーション医学の歴史から、各疾患のリハビリテーションの流れを理解する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各疾患におけるリハビリテーション医学の中で、理学療法が果たす役割を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーション医学とは リハ医学の歴史		
2	障害分類		
3	リハビリテーションの過程 チーム医療とは		
4	脳血管障害のリハビリテーションの流れ		
5	大腿骨頸部骨折のリハビリテーション		
6	神経疾患のリハビリテーション		
7	小児のリハビリテーションの流れ		
8	リハ医学その他の疾患 試験対策		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		定期試験 60 点以上合格. 出欠席	

授業概要			
リハビリテーション概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 リハビリテーションとは何かを学び、リハビリテーションという言葉の真の意味を理解し学習する。またリハビリテーションに関わる各専門職を理解し、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学習する。			
【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションの定義・目的、障害の概念、チームアプローチについて講義する。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 リハビリテーションの概念、障害の概念を理解できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの定義と目的		
2	病気と障害、障害受容について		
3	リハビリテーションの領域、チームアプローチ		
4	チームアプローチと各種専門職との多職種連携		
5	人間発達とリハビリテーション		
6	障害観と国際障害分類、国際生活機能分類		
7	リハビリテーションと社会生活、社会保障論		
8	振り返り・まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 講義配布資料		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点, 平常点 10 点（出席） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
作業療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	廣瀬 達也	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。 【授業全体の内容の概要】 作業療法を学ぶために作業療法の成り立ちや各領域における役割を講義や演習を通して理解する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 自分なりに作業療法のイメージを持ち、且つ、理学療法の役割について考えられる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法とは		
2	作業療法の歴史と原理		
3	作業の分析と治療への適用		
4	身体機能分野における作業療法の実際		
5	精神機能分野における作業療法の実際		
6	発達過程分野における作業療法の実際		
7	高齢期分野における作業療法の実際		
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
配布資料		筆記試験 60 点以上合格。	

授業概要			
言語療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	野津 清	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士として活躍するために、知っておかなければならない言語聴覚療法の医療的知識や医療者としての取り組み姿勢を就学する。 【授業全体の内容の概要】 「障害を診ずして障害者を診よ」。社会的視野を持ち、人と向き合う理学療法士になるためには、幅広い知識が必要です。この講義では、脳卒中による言語機能障害や嚥下障害、聴覚の障害などにおける様々な知識と技術を、学生目線でわかりやすく講義致します。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 受講し習得した医術や考え方を、臨床（患者ケア）にどう活かすかをイメージできるようになる。そして、3年後の自分の姿を想像し、障害部位や機能だけを診るのではなく、それに苦しむ“人”を診る理学療法士になるために必要なことは何かを考えることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高次脳機能障害 ～概論～		
2	高次脳機能障害 ～失行・失認～		
3	高次脳機能障害 ～失語症①～		
4	高次脳機能障害 ～失語症②～		
5	構音障害・吃音		
6	聴覚障害 ～聴覚障害者とのコミュニケーション／手話～		
7	嚥下障害		
8	職業”理学療法士”として生きる		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：A4 ファイルをご用意ください。 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	八木 佑介	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。 【授業全体の内容の概要】 まずは社会福祉・社会保障・社会保険の違いについてしっかり理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また身近な社会資源から世界の社会保障に至るまで実例を示しながら、グループワークも交えて相互理解を図る。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人々の暮らしの中で、医療・社会福祉がどのような役割があるのかを理解し、歴史・法体系・社会保障制度の重要性を把握する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	社会福祉の歴史		
3	社会保障の概念		
4	社会保障の目的と機能		
5	医療保険制度について①		
6	医療保険制度について②		
7	介護保険について①		
8	介護保険について②		
9	グループワーク①		
10	医療保険制度①		
11	医療保険制度②		
12	グループワーク②		
13	社会福祉の諸制度について		
14	総復習		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 必要に応じてプリント資料を配布		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（出席 5 点，授業態度 5 点，発表点 10 点） 計 100 点 60 点以上合格。	

授業概要			
理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	洪澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学における理学療法の役割について総合的・体系的に教授する。 理学療法の概念・理学療法士の職域と社会的役割・チーム医療における位置づけ・理学療法の特徴について理解を深めていく。 【授業全体の内容の概要】 理学療法の理念および歴史・倫理、理学療法士の職域と業務管理運営、社会的役割・教育研究および職能団体の意義についても理解を深める。 ディスカッション等の小規模グループワークを行い、援助的構造の集団活動により他者との一体感や親密さを共有する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 医療専門職である理学療法士のイメージを身につけること、今後学習する理学療法各論への知識の統合・統合化への基礎をつくることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法学総論		
2	理学療法の歴史		
3	理学療法士の法律制度		
4	理学療法の保険制度		
5	理学療法部門における管理とチーム医療		
6	理学療法教育		
7	理学療法研究		
8	理学療法の組織 理学療法士協会		
9	世界の理学療法		
10	理学療法の領域 職域		
11	理学療法に関連する分野		
12	理学療法の対象と治療手段		
13	臨床での理学療法①		
14	臨床での理学療法②		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 「医学書院 e テキスト」理学療法学概説		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点（出席 5 点，授業態度 5 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
臨床運動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	渋澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 第 3 者に動作が伝えられるように動作の記述，動作における各部の動きと正常動作のパターンの把握，異常動作の特徴の把握ができる．また異常動作の原因を推察できるようにする． 【授業全体の内容の概要】 テキストと参考文献に添って講義・演習をおこなう 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ①動作の記述が出来る．②動作における各部の動きが言える．③正常動作のパターンが把握できる．④異常動作の特徴を把握できる．			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 序論・バイオメカニクス		
2	基本動作の姿勢制御		
3	寝返り動作 1 講義 パターン・各部位・評価		
4	寝返り動作 2 演習 分析		
5	起き上がり動作 1 講義 パターン・各部位・評価		
6	起き上がり動作 2 演習 分析		
7	起立（立ち上がり動作） 1 講義 パターン・各部位・評価		
8	起立（立ち上がり動作） 2 演習 分析		
9	正常歩行 1		
10	正常歩行 2		
11	正常歩行 3		
12	異常歩行 1		
13	異常歩行 2		
14	異常歩行 3		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 教科書 動作分析 臨床活用講座 筋骨格系のキネシオロジー 参考文献 臨床歩行分析ワークブック		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点， 平常点 20 点 （出席 5 点，授業態度 5 点，課題 5 点，小テスト 5 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法研究法	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	石田 和人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士における研究法について学習する 【授業全体の内容の概要】 理学療法における研究の重要性を認識する 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理学療法士における研究について理解することができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法研究への入り口（なぜ研究するのか？）		
2	研究計画・研究の種類・シングルケースデザイン		
3	文献検索法演習（Ⅰ）情報リテラシー入門と和文献の検索		
4	論文講読演習および発表		
5	臨床研究と生体計測論		
6	基礎医学的研究方法論		
7	社会調査（調査法・質問調査法・尺度の妥当性）		
8	研究と倫理と EBM		
9	文献検索法演習（Ⅱ）国際誌の検索		
10	学会発表と論文作成について		
11	実践統計学		
12	模擬研究演習（Ⅰ）生体計測（データ収集）		
13	模擬研究演習（Ⅱ）データ解析とまとめ		
14	理学療法研究から留学への道		
15	まとめ・総合討論		
【使用テキスト・参考文献】 指定なし 必要に応じてプリントした資料を配布する		【単位認定の方法及び基準】 出席状況，演習レポートの提出を基本として，試験により評価する．60 点以上合格．	

授業概要			
理学療法管理学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 高齢化の進展に伴って医療ニーズが変化し、これまでも保健・医療・福祉の一体的な改革が進められてきた。リハビリテーションの対象者には病気と共存しながら在宅生活の質の維持向上を図る必要性に直面し、切れ目のない効率的なサービス提供のための「連携」が重要視されている。 リハビリテーションを担う者として、院外・施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに携わる機会が増加する中において、その拠点となる組織の強化につき、具体的な管理・教育について系統的・具体的に教授する。 【授業全体の内容の概要】 医療保険制度・介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 保健医療福祉制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養い、理学療法倫理および理学療法教育についての理解が深まる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、総論		
2	医療法		
3	チーム医療と専門職		
4	社会保障制度		
5	医療保険		
6	介護保険		
7	診療報酬・介護報酬		
8	予防		
9	業務管理		
10	多職種連携・地域連携		
11	リスク管理・感染症対策		
12	権利・倫理、教育管理		
13	まとめ		
14	復習		
15	試験解説		
【使用テキスト・参考文献】 ・リハビリテーション管理学 医学書院 ・資料配布 参考文献 ・理学療法管理学 医歯薬出版		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
臨床評価学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	柳 忠	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法を実施するための画像情報の読み取り方から理学療法への結び付けについて理解する。 臨床上必要となる姿勢・動作観察から必要な情報を収集できる能力を養う。 【授業全体の内容の概要】 画像情報を読み取る解剖学的知識を確認し、画像情報を読み取る。 実際の人物や動画を利用した姿勢・動作の観察から分析を行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 画像情報から、疾患情報や障害像を予測できるようになる。 姿勢・動作観察から各姿勢・動作を困難にしている要因を推測しまとめることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	画像情報とは（X線、CT）		
2	画像情報とは（MRI、超音波）		
3	頸椎の正常画像と代表的疾患の画像		
4	胸腰椎の正常画像と代表的疾患の画像		
5	上肢の正常画像と代表的疾患の画像		
6	下肢の正常画像と代表的疾患の画像		
7	整形外科疾患の画像の読み取り		
8	頭部の正常画像、脳卒中の画像		
9	その他中枢疾患の画像、呼吸器疾患の画像		
10	姿勢観察（臥位・座位）		
11	姿勢観察（立位）		
12	動作観察（立ち上がり）		
13	動作観察（歩行）（１）		
14	動作観察（歩行）（２）		
15	画像情報・動作観察からの理学療法		
【使用テキスト・参考文献】 ＜参考文献＞ PT・OTのための画像のみかた リハで読むべき運動器画像		【単位認定の方法及び基準】 単位認定は、定期試験 80%、レポート課題 20%の配分で 60 点以上を合格とする。レポート課題については基準点未満の場合再提出とする。	

授業概要			
理学療法評価学Ⅰ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法の位置づけを理解し、意義・目的を学習し、実際の評価技術を習得する。			
【授業全体の内容の概要】 理学療法評価の総論と一部各論について講義・実習を行う。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 評価とは何かを理解し、情報収集の方法や一部測定を行うことができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	講義：理学療法評価総論		
2	講義：理学療法評価各論：情報収集		
3	実習：理学療法評価各論：形態測定		
4	実習：理学療法評価各論：形態測定		
5	実習：理学療法評価各論：形態測定		
6	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
7	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
8	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
9	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（上肢）		
10	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
11	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
12	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（下肢）		
13	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（手指）		
14	実習：理学療法評価各論：関節可動域測定測定（体幹）		
15	振り返り・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 理学療法評価学 実習を行える服装で臨むこと。（Ｔシャツ，ハーフパンツ）		【単位認定の方法及び基準】 試験 80点，平常点 20点（出席 10点，課題・小テスト 10点）計 100点 60点以上合格	

授業概要			
理学療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法の効果的な介入を実践するために、理学療法評価を理解し実際の技術を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 評価方法（中枢神経疾患）の意義・目的を理解し実践する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各評価方法の意義・目的を理解し実践できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	バイタルサイン		
2	感覚検査		
3	腱反射、皮膚反射、病的反射 1		
4	腱反射、皮膚反射、病的反射 2		
5	筋緊張検査		
6	運動失調検査		
7	片麻痺機能検査 1		
8	片麻痺機能検査 2		
9	片麻痺機能検査 3		
10	脳神経検査		
11	脳神経支配の筋の検査		
12	高次脳機能検査		
13	脳血管疾患患者評価の流れ 1（画像情報の理解を含む）		
14	脳血管疾患患者評価の流れ 2（画像情報の理解を含む）		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 理学療法評価学 その他、必要に応じて資料配布		【単位認定の方法及び基準】 出席状況 5% 課題 5% 期末試験 90% 60%以上合格	

授業概要			
理学療法評価学Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法で取り扱う疾患の中で中枢神経疾患とともに多いのが整形外科疾患である。理学療法で簡単に検査できる方法として、徒手的な検査があり、その代表的なものを説明する。			
【授業全体の内容の概要】 各種疾患の検査法，障害および各検査手順を説明する。各検査法が実際にできるよう反復練習する。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各種疾患の検査法，障害について理解する。各検査手順を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、整形外科検査の意義目的について		
2	上肢疾患検査（肩関節①）		
3	上肢疾患検査（肩関節②）		
4	上肢疾患検査（肘関節）		
5	上肢疾患検査（手関節，指関節）		
6	下肢疾患検査（股関節①）		
7	下肢疾患検査（股関節②）		
8	下肢疾患検査（膝関節①）		
9	下肢疾患検査（膝関節②）		
10	下肢疾患検査（足関節）		
11	その他の疾患の検査（画像情報の理解を含む）		
12	整形外科検査総復習		
13	ケーススタディ（大腿骨頸部骨折）		
14	ケーススタディ（変形性膝関節症）		
15	振り返り・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 理学療法評価学 実習はジャージ等，実技が行える服装で臨むこと。		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点（出席 5 点，授業態度 5 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法評価学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸・田端 吉彦	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 各関節の運動の筋力検査を学生同士で実践しながら学ぶ。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 肩甲骨、上肢および下肢の徒手筋力検査法を実施することができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション, 徒手筋力検査法の目的		
2	徒手筋力検査法(上肢)		
3	徒手筋力検査法(上肢)		
4	徒手筋力検査法(上肢)		
5	徒手筋力検査法(上肢)		
6	徒手筋力検査法(上肢)		
7	徒手筋力検査法(上肢)		
8	徒手筋力検査法(上肢)		
9	徒手筋力検査法(上肢)		
10	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
11	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
12	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
13	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
14	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
15	徒手筋力検査法(肩甲骨)		
16	上肢・肩甲骨の実技試験		
17	上肢・肩甲骨の実技試験		
18	徒手筋力検査法(下肢)		
19	徒手筋力検査法(下肢)		
20	徒手筋力検査法(下肢)		
21	徒手筋力検査法(下肢)		
22	徒手筋力検査法(下肢)		
23	徒手筋力検査法(下肢)		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
新・徒手筋力検査法 第 10 版 協同医書出版社 実習を行える服装で臨むこと。(Tシャツ, ハーフパンツ)		実技試験 80 点, 平常点 20 点 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法評価学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
23 回	45	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法評価のひとつ徒手筋力検査法について、意義・目的と実技を学ぶ。 臨床実習に向けての客観的臨床能力試験(OSCE)の実技を習得する。 【授業全体の内容の概要】 各評価を学生同士で実践しながら学ぶ。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 実習に向けて、模擬患者に対して各評価を実施できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	徒手筋力検査法(頸・体幹)		
2	徒手筋力検査法(頸・体幹)		
3	徒手筋力検査法(頸・体幹)		
4	徒手筋力検査法(頸・体幹)		
5	徒手筋力検査法(頸・体幹)		
6	徒手筋力検査法(手指・足趾)		
7	徒手筋力検査法(手指・足趾)		
8	徒手筋力検査法(手指・足趾)		
9	OSCE 講義(脈拍と血圧の測定)		
10	OSCE 講義(呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価)		
11	OSCE 講義(整形外科疾患別検査)		
12	OSCE 講義(筋の触察)		
13	OSCE 講義(感覚検査)		
14	OSCE 講義(反射検査)		
15	OSCE 講義(脳神経検査)		
16	OSCE 講義(脳卒中の麻痺側運動機能の評価)		
17	OSCE 講義(運動失調検査)		
18	OSCE 講義(立位バランスの評価)		
19	OSCE 講義(下肢装具・歩行補助具の調整)		
20	OSCE 実技①		
21	OSCE 実技②		
22	OSCE 実技③		
23	OSCE 実技④		
【使用テキスト・参考文献】 新・徒手筋力検査法 原著 理学療法評価学 PT・OT のための臨床技能と OSCE 実習が行える服装(短パン, T シャツなど)を準備すること。		【単位認定の方法及び基準】 実技試験で 6 割以上を合格とする	

授業概要			
運動療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	福本 久人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	1 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 運動療法学は理学療法のもっとも大きな柱として位置づけられている。 また、治療医学・リハビリテーション医学においても不可欠な領域として存在している。在宅における理学療法にあっても運動療法の背景となる基礎知識と技術は当然求められる。 また、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施するという基本的課題についても真摯に取り組む必要がある。 【授業全体の内容の概要】 理学療法の礎となるべく、運動療法の基礎の理解を、経験則ではなく世界で求められている EBM・EBP を正しく理解し実施する。小テストや復習テストを採り入れていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動療法各論を行う前提として知っておかなければならない基本・基礎分野を正確に理解し説明できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	運動療法学総論		
2	筋の構造と機能		
3	興奮収縮連関		
4	筋張力の調節		
5	関節構造と機能①		
6	関節構造と機能②		
7	関節運動のバイオメカニクス		
8	関節可動域運動①		
9	関節可動域運動②		
10	筋力増強運動①		
11	筋力増強運動②		
12	筋持久力増強運動①		
13	筋持久力増強運動②		
14	筋持久力増強運動③		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 運動療法学 総論		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学Ⅰ（中枢Ⅰ）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 中枢神経系の復習とともに脳血管疾患により引き起こされる障害を理解する。脳血管疾患患者の状態の理解及び治療法について学ぶ 【授業全体の内容の概要】 本講義では、脳血管疾患の理学療法について解剖などの基礎知識から一般的な治療までを学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 脳血管疾患の理学療法の一般的な評価から治療を計画できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、中枢神経系の解剖 1		
2	中枢神経系の解剖 2（画像情報の理解含む）		
3	随意運動のしくみ		
4	脳損傷の定義と病態		
5	脳の損傷と回復		
6	急性期リハビリテーション		
7	回復期リハビリテーション		
8	片麻痺の肩の管理（スリング含む）		
9	脳卒中の基本動作		
10	脳卒中の ADL		
11	片麻痺の歩行		
12	脳卒中片麻痺の装具		
13	運動失調と評価・訓練		
14	高次脳機能障害と評価		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 脳卒中最前線 ベッドサイドの神経の診かた 機能解剖で斬る神経系疾患 その他、必要に応じて資料を配布する。		【単位認定の方法及び基準】 出席状況 5% 課題 5% 期末試験 90% 計 100 点 60%以上合格	

授業概要			
理学療法治療学Ⅱ（中枢Ⅱ）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	福本 久人	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 リハビリテーションとは機能回復の病態生理学的原理理解を深め、発展させ、洗練しようとする 1 つの過程であり、それ自体は疾患ではなく固有の疾患も存在しない。神経学的リハビリテーションとは神経疾患の原則をこの過程に応用して機能を再建することにある。 原疾患の経過と本質とを理解する。 【授業全体の内容の概要】 原疾患の理解を踏まえ、人間の活動や行動にきわめて重要な役割を果たす運動療法の思考過程や技術の理解を深める。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理想的な治療指標と適用手段を選定した運動療法の選定と、種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	SCI 総論		
2	SCI 症候		
3	SCI 合併症①		
4	SCI 合併症②		
5	SCI の評価		
6	SCI の理学療法①		
7	SCI の理学療法②		
8	神経変性疾患		
9	PD 概論		
10	PD の症候		
11	PD の評価		
12	SCD 概論		
13	SCD の評価		
14	PD・SCD の理学療法		
15	解説・まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 講義資料配布		[単位認定の方法及び基準] 試験 80 点，平常点 20 点（授業態度 10 点，課題 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学Ⅲ（小児）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 小児理学療法に関する基礎的な内容を理解する 【授業全体の内容の概要】 子どもの正常発達を理解し、それに基づき障害児との違いを考え障害児の評価、プログラムの立案、評価のポイントを学ぶ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 正常運動発達について理解している 代表的な疾患について理解している			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	小児リハの総論		
2	正常発達		
3	正常発達		
4	原始反射		
5	原始反射		
6	原始反射		
7	脳性麻痺の特徴		
8	脳性麻痺の特徴		
9	脳性麻痺の評価		
10	脳性麻痺の評価		
11	脳性麻痺の治療		
12	神経筋疾患の総論（筋ジストロフィーを中心に）		
13	神経筋疾患に対する理学療法		
14	その他の小児疾患総論		
15	小児理学療法の振り返り・定期試験解説		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
小児理学療法学テキスト／南江堂		試験により評価する．60 点以上合格．	

授業概要			
理学療法治療学Ⅳ（内部障害理学療法）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・実習	尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法士に必要な内部障害理学療法について学習する。 【授業全体の内容の概要】 基本的な内部障害疾患の病態や理学療法評価について学習する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各疾患に対する病態を理解し、リスク管理を考慮した理学療法プログラムの立案ができることを到達目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内部障害理学療法学総論		
2	心臓リハビリテーション総論		
3	心電図		
4	運動耐容能		
5	心臓リハビリテーションⅠ		
6	心臓リハビリテーションⅡ		
7	心臓リハビリテーションⅢ		
8	代謝障害・再発予防		
9	糖尿病の理学療法		
10	呼吸リハビリテーションⅠ		
11	呼吸リハビリテーションⅡ		
12	呼吸リハビリテーションⅢ		
13	腎疾患と理学療法		
14	がんリハビリテーション		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（出席 10 点，課題・小テスト 10 点）計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学Ⅴ（スポーツ）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義		無
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 我が国におけるスポーツ活動は多様化し、様々な目的をもってスポーツに取り組む人々が増加している。スポーツ医療に伴い、理学療法士が活動をする場所と機会も増してきており、社会的な期待も大きくなっている。			
【授業全体の内容の概要】 スポーツ選手や愛好家に対する「スポーツ理学療法」の概略を紹介する			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上肢・下肢の代表的なスポーツ外傷（急性外傷，慢性外傷）への理学療法について実技も含めて習得する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	スポーツ理学療法学概論①		
2	スポーツ理学療法学概論②		
3	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷①		
4	膝関節のスポーツ外傷1－急性外傷②		
5	下肢のスポーツ外傷（慢性外傷）①		
6	下肢のスポーツ外傷（慢性外傷）②		
7	足関節・足部のスポーツ外傷①		
8	足関節・足部のスポーツ外傷②		
9	頸部・腰部のスポーツ外傷①		
10	頸部・腰部のスポーツ外傷②		
11	肩のスポーツ外傷①		
12	肩のスポーツ外傷②		
13	肘～手のスポーツ外傷①		
14	肘～手のスポーツ外傷②		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング（上・下巻）		【単位認定の方法及び基準】 出席状況，レポートによる総合判定．60点以上合格．	

授業概要			
理学療法治療学 VI（整形外科）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義・実習	岡本 美幸	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 運動器障害に対する理学療法を行う上で必要な疾患・病態を学び、理学療法の基本的手技を習得する 【授業全体の内容の概要】 運動器障害の説明，その障害に対する評価と治療方法を実習を交えながら行っていく 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動器障害の理解とその障害に対する評価と治療方法について考えることができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	組織再生・修復		
2	関節リウマチ①		
3	関節リウマチ②		
4	末梢神経損傷①		
5	末梢神経損傷②		
6	頸部疾患①		
7	頸部疾患②		
8	腰部疾患①		
9	腰部疾患②		
10	脊椎の手術①		
11	脊椎の手術②		
12	側彎症		
13	骨端症		
14	ケーススタディ		
15	振り返り・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 実習はジャージ等，実技が行える服装で臨むこと		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点，計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学実習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	八木 佑介	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法の治療に必要な関節可動域運動を，解剖学・運動学的観点から理解し，実施できることを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 各関節の構造を理解し，正しい運動方向を理解しながら，実技を中心に行っていく。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各関節の可動域運動を実施できることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	関節可動域運動 上肢①（肩関節）		
3	関節可動域運動 上肢②（肩甲帯）		
4	関節可動域運動 上肢③（肘・手関節）		
5	関節可動域運動 上肢④（指関節）		
6	関節可動域運動 下肢①（股関節）		
7	関節可動域運動② 下肢（膝関節）		
8	関節可動域運動 下肢③（足関節）		
9	関節可動域運動 体幹①（頸部）		
10	関節可動域運動 体幹②（腰部）		
11	疾患別関節可動域運動 整形外科疾患		
12	疾患別関節可動域運動 中枢疾患		
13	疾患別関節可動域運動 その他疾患		
14	関節可動域運動 禁忌事項について		
15	まとめ 総復習		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 理学療法評価学 第3版 医学書院 実技練習の際は，Tシャツ，ハーフパンツに着替えること		【単位認定の方法及び基準】 出席 50 点，小テスト 50 点 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 ストレッチは理学療法治療手技のひとつである。ストレッチの目的・対象となる組織を理解した上で、実技を学ぶ。 【授業全体の内容の概要】 対象となる組織を確認し、その対象に応じたストレッチ方法を学び、学生同士で実際にストレッチを行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 治療の対象となる組織をイメージし、適切なストレッチング方法を導き出し、実施することができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	ストレッチとは		
2	頸・体幹 1		
3	頸・体幹 2		
4	頸・体幹 3		
5	上肢 1		
6	上肢 2		
7	上肢 3		
8	上肢 4		
9	下肢 1		
10	下肢 2		
11	下肢 3		
12	下肢 4		
13	検査からストレッチまでの流れ 1		
14	検査からストレッチまでの流れ 2		
15	検査からストレッチまでの流れ 3		
【使用テキスト・参考文献】 使用せず 実習が行える服装（短パン，T シャツなど）を準備すること。		【単位認定の方法及び基準】 授業態度および課題にて判断する。 60 点以上合格。	

授業概要			
理学療法治療学実習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	八木 佑介	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 整形外科疾患の病態を理解し、理学療法士としての基本的な治療技術を学習することを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 各疾患の病態を説明し、必要な評価や治療法を実技を交えて講義をする。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各疾患の病態を理解し、適切な評価と治療が選択できることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	骨折について①		
3	骨折について②		
4	脱臼について		
5	肩関節周囲炎①		
6	肩関節周囲炎②		
7	肩関節の外傷		
8	変形性股関節症①		
9	変形性股関節症②		
10	変形性膝関節症①		
11	変形性膝関節症②		
12	膝関節靱帯・半月板損傷、肉ばなれ		
13	運動器系治療実技①		
14	運動器系治療実技②		
15	まとめ 総復習		
【使用テキスト・参考文献】 標準整形外科学 実技練習の際は、Tシャツ、ハーフパンツに着替えること		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点，平常点 20 点（出席 10 点，授業態度 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学実習Ⅳ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 各種マッサージ療法の理解し、各筋に対するマッサージの実施及び肢位の選択を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 筋の位置・厚さ・走行などの違いによるマッサージの方法を学ぶ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 筋の位置・厚さ・走行などの違いを考慮し適切なマッサージができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	マッサージ療法とは		
2	筋のとらえ方 1		
3	筋のとらえ方 2		
4	筋のとらえ方 3		
5	マッサージ療法 腰背部 1		
6	マッサージ療法 腰背部 2		
7	マッサージ療法 頸部・肩甲帯 1		
8	マッサージ療法 頸部・肩甲帯 2		
9	マッサージ療法 上肢 1		
10	マッサージ療法 上肢 2		
11	マッサージ療法 下肢 1		
12	マッサージ療法 下肢 2		
13	マッサージ療法 下肢 3		
14	評価からマッサージ療法の流れ 1		
15	評価からマッサージ療法の流れ 2		
【使用テキスト・参考文献】 テキストは使用せず 参考文献 骨格筋の形と触察法 日本人体解剖学 実習が行える服装（短パン，T シャツなど）を準備すること。		【単位認定の方法及び基準】 授業態度にて判断する。 60 点以上合格。	

授業概要			
義肢装具学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	内橋 礼樹	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法の中で必要とされる、装具についての知識について理解を深める。			
【授業全体の内容の概要】 テキストに沿った装具学全般の講義（パワーポイントにて）、及び臨床現場における理学療法士にとって重要と思われるチェックポイントについて解説を行う。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 装具の名称、機能についての理解を得る。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	装具学 テキスト（P1～15） 装具学総論		
2	装具学 テキスト（P17～47） 足底装具		
3	装具学 テキスト（P17～47） 靴型装具		
4	装具学 テキスト（P62～84） 短下肢装具		
5	装具学 テキスト（P90～96） 膝装具		
6	装具学 テキスト（P84～89、96～105）長下肢装具、股装具、免荷装具 他		
7	装具学 テキスト（P105～113） 小児用装具 他		
8	装具学 下肢装具まとめ、試験問題		
9	装具学 テキスト（P117～146） 体幹装具①		
10	装具学 テキスト（P117～146） 体幹装具②		
11	装具学 テキスト（P149～198） 上肢装具①		
12	装具学 テキスト（P149～198） 上肢装具②		
13	装具学 体幹装具、上肢装具まとめ、試験問題		
14	装具学 まとめ 及び 試験対策		
15	試験解説		
【使用テキスト・参考文献】 「装具学 第4版」 医歯薬出版（株） 1.パワーポイント使用環境設備 2.各回テーマに沿った装具（学内備品を準備・使用） 3.資料配布（パワーポイント）		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上で合格	

授業概要			
義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習		
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 義肢の種類・構造・機能・使用目的・適応を理解し処方・適合判定ができるようになる。 【授業全体の内容の概要】 義足・義手の現物を見ながら知識を深める。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 義肢の種類・構造を理解する。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	義肢学総論		
2	義肢の分類		
3	足部について		
4	下腿義足		
5	下腿義足：アライメント		
6	大腿義足		
7	大腿義足：アライメント、膝継手		
8	異常歩行について		
9	義足リハビリについて		
10	その他義足		
11	義手について		
12	テスト解説		
13	採型実習		
14	適合実習		
15	試験解説		
[使用テキスト・参考文献] 「装具学」 「義肢学」		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格	

授業概要			
物理療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	岡本 美幸・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 近年我が国に於ける理学療法は、臨床・研究さらには教育の分野においても運動療法に主眼がおかれている状況にある。理学療法における物理療法の位置づけを学び、解剖学・物理学・生理学・病理学・障害学・医療社会学などの科学的知見に立脚したバランスのとれた理学療法士の育成に努める。 【授業全体の内容の概要】 各種物理療法を臨床でどのように適用し、どのように活かしていくかを、その有効性とリスク管理の面から最適なインターベンションを図るすべを理解する必要がある。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理想的な治療指標と適用手段を選定し、治療プログラムへ組み込むことによって、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素の統合ができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	物理療法総論・リスク管理		
2	温熱療法概略		
3	ホットバック・パラフィン浴		
4	極超短波・超短波療法		
5	超音波療法		
6	水治療法		
7	電気刺激療法①		
8	電気刺激療法②		
9	牽引療法		
10	超音波療法		
11	光線療法・寒冷療法		
12	グループワーク①		
13	グループワーク②		
14	グループワーク③		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 物理療法学 第5版		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点（授業態度・出席状況 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
物理療法学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	岡本 美幸・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 物理療法は、歴史的経緯から見てもともと理学療法自体の原型であった。時代と共に理学療法の対象が運動障害を呈する疾患に変遷していく中で、物理療法は幾分軽視される傾向にあった。しかし近年、その重要性が見直され物理療法に関連した研究も徐々に活性の度合いを増している。 【授業全体の内容の概要】 グループを構成、各々実習課題を設定し実習に取り組む。実際に生体の生理学的反応の体感をし、理解を深める。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 物理療法の有効性、リスク管理の面から最適なインターベンションを適用するための判断能力を身につけること、ならびに種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	グループワーク		
3	事前実習①		
4	事前実習②		
5	実習①		
6	実習②		
7	実習③		
8	実習④		
9	実習⑤		
10	実習⑥		
11	補習実習①		
12	補習実習②		
13	発表①		
14	発表②		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 物理療法学		【単位認定の方法及び基準】 試験 60 点, 平常点 40 点（実習態度 15 点, 課題 15 点, 発表 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 ADL の概念や範囲，また国際障害分類，国際生活機能分類との関連性について学習し，理学療法における ADL の位置づけについて理解を深める． 【授業全体の内容の概要】 ADL の概念や範囲，評価法について説明する．また疾患別の ADL についての理解を深めていく． 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ADL の範囲と評価について理解する．各疾患に対する ADL を理解する．			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	講義：ADL の概念と範囲		
2	講義：ADL と QOL		
3	講義：ADL 評価法Ⅰ		
4	講義：ADL 評価法Ⅱ（Barthel Index）		
5	講義：ADL 評価法Ⅲ（FIM）		
6	講義：疾患別 ADLⅠ（関節リウマチ）		
7	講義：疾患別 ADLⅡ（下肢切断）		
8	講義：疾患別 ADLⅢ（脊髄損傷）		
9	講義：疾患別 ADLⅣ（片麻痺）		
10	講義：疾患別 ADLⅤ（筋ジストロフィー）		
11	講義：疾患別 ADLⅥ（人工骨頭全置換術）		
12	講義：疾患別 ADLⅦ（パーキンソン病）		
13	講義：疾患別 ADLⅧ（心疾患）		
14	講義：疾患別 ADLⅨ（呼吸器疾患）		
15	振り返り・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点（出席点・授業態度） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 日常生活活動の概念などの基礎知識と日常生活活動評価方法，各疾患に対する日常生活活動練習の実施方法を習得する。 【授業全体の内容の概要】 食事・入浴・更衣・排泄・整容・起居移動動作の分析および練習方法・介助方法について実習を行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患別に必要となる日常生活活動の選択と適切な練習方法ならびに介助方法が習得できる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	歩行補助具Ⅰ		
2	歩行補助具Ⅱ		
3	歩行補助具Ⅲ		
4	歩行補助具Ⅳ		
5	片麻痺の ADLⅠ		
6	片麻痺の ADLⅡ		
7	脊髄損傷の ADLⅠ		
8	脊髄損傷の ADLⅡ		
9	心疾患の ADLⅠ		
10	心疾患の ADLⅡ		
11	呼吸器疾患の ADLⅠ		
12	呼吸器疾患の ADLⅡ		
13	吸痰演習Ⅰ		
14	吸痰演習Ⅱ		
15	解説・まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学		【単位認定の方法及び基準】 試験 90 点，平常点 10 点（授業態度・感想文） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
理学療法治療学演習 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	田端 吉彦・藤原 美咲・尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60	3 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する. 【授業全体の内容の概要】 理学療法治療技術について学習する. 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理学療法士に必要な治療技術について理解し、卒業論文としてまとめることができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～5	臨床で経験した理学療法評価技術のまとめ		
6～10	臨床で経験した理学療法評価技術理論のまとめ		
11～15	臨床で経験した治療技術のまとめ		
16～20	臨床で経験した治療技術理論のまとめ		
21～30	各症例に関する臨床的推論についての討議		
【使用テキスト・参考文献】 使用テキストはなし		【単位認定の方法及び基準】 授業参加態度により評価する. 出席 50 点 授業態度 50 点 60 点以上を合格とする	

授業概要			
理学療法治療学演習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	演習	田端 吉彦・藤原 美咲・尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60	3 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 臨床実習で学んだ理学療法治療技術について学習する。 【授業全体の内容の概要】 理学療法治療技術について学習する。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 理学療法士に必要な治療技術について理解し、卒業論文としてまとめることができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	テーマ決定、文献による学習・まとめ、卒業論文作成		
16 ～ 20	テーマについてグループ討議		
21 ～ 26	パワーポイントなど発表準備、抄録作成		
27 ～ 30	卒業論文発表		
【使用テキスト・参考文献】 使用テキストはなし		【単位認定の方法及び基準】 卒業論文の抄録と原稿の提出。 卒業論文発表時の評定 60%以上を合格とする	

授業概要			
臨床理学療法 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦・藤原 美咲・尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60	3 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 国家試験の合格を目標に, 学習スタイルの見直し, 基礎三科目 (解剖学, 運動学, 生理学), 専門分野等, しっかり知識を身につける. 【授業全体の内容の概要】 グループワークにてスケジュールに沿い実施 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 国家試験の合格レベルに達する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	理学療法に関する解剖学的思考		
16 ～ 30	理学療法に関する運動学的思考		
【使用テキスト・参考文献】 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 2021 専門基礎分野 基礎医学 理学療法士 国家試験問題解説 2021 共通問題		【単位認定の方法及び基準】 試験 (国家試験レベル) 6 割以上合格	

授業概要			
臨床理学療法Ⅱ	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	田端 吉彦・藤原 美咲・尾関 直洋	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60	3 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 国家試験の合格を目標に、学習スタイルの見直し、基礎三科目（解剖学、運動学、生理学）、専門分野等、しっかり知識を身につける。 【授業全体の内容の概要】 グループワークにてスケジュールに沿い実施 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 国家試験の合格レベルに達する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1～ 15	理学療法に関する生理学的思考		
16 ～ 30	理学療法関する総合的理解及び推論		
【使用テキスト・参考文献】 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 2021 基礎 PT 学 理学療法士 国家試験問題解説 2021 専門問題		【単位認定の方法及び基準】 試験(国家試験レベル)6 割以上合格	

授業概要			
地域理学療法学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30	2 年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】 我が国に理学療法士が誕生して 50 年余りが経過し、疾病構造の変化や少子高齢社会への進展、障害を持つ人々に対するリハビリテーションのあり方や障害者福祉も大きく変化してきた。リハビリテーション医療も病院や施設から在宅にその比重を移し、地域社会を基盤としたリハビリテーション・サービスのシステム化が厚生労働省の施策として推進されている。こうした動きと呼応して理学療法も病院や施設内から住宅に、そして地域社会に根ざした取り組みが求められてきている。疾病構造の変化や人口構造の転換により新たな医療ニーズを生起させ、治療方法や医療供給体制の変革を理解する。 【授業全体の内容の概要】 地域リハビリテーションの概念ならびにその構造を理解すると共に、その中で理学療法の果たすべき役割や責務を明確にし最適なインターベンションを図る術の理解に努める。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域リハビリテーションにおける医療・福祉制度を理解し、地域において理学療法士の果たすべき役割や責務を明確にすることを目標とする。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション、地域理学療法概念		
2	地域リハビリテーションを支えるシステム（地域包括ケアシステム）		
3	各病期の役割について、地域理学療法の法制度		
4	介護保険制度		
5	介護サービス		
6	グループワーク 1		
7	福祉用具、住宅改修		
8	社会資源、介護予防		
9	グループワーク 2-1		
10	グループワーク 2-2		
11	グループワーク 2-3		
12	グループワーク 発表		
13	グループワーク 発表		
14	地域包括ケア病棟		
15	地域での役割		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
使用せず		試験 60 点、発表点 20 点、平常点 20 点（授業態度 10 点、出席点 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	
必要に応じて配布資料あり			

授業概要			
生活環境学	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	洪澤 里香	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8 回	16	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 私たちを取り巻く環境にはさまざまな要因があるが、その中でも生活環境は暮らしていくうえで大きくかかわってくる問題である。訓練室での動作のみでなく、自宅で過ごす上でより良い生活をおくるには何をしていくべきかを理学療法士の視点からとらえ、そのための法律および制度の理解と実際の環境整備を考えていく。また生活環境を整えるということは、その人の身体、精神、家族構成などさまざまな状態を把握していなければならない為、総合的評価ができるようことを最終的な目的とする。 【授業全体の内容の概要】 理学療法士として、リハビリテーションを施行する際に関わる機器及び諸制度を把握し、障害・疾患別の環境整備を整えるための知識・考え方を得る。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 リハビリテーション関連機器及び生活環境整備に必要な機器を理解し、長所・短所ならびにその適応について説明ができる			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活環境学とは 生活環境学の概念		
2	環境整備について 生活環境の評価と改善計画		
3	社会保障と法的制度		
4	住宅環境 環境整備に必要な建築関連法規 建築図面のルールと読み方		
5	福祉用具・リハビリテーション機器		
6	地域環境と公共整備 公共の場での環境		
7	高齢者の支援サービスと環境整備		
8	まとめ		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版		【単位認定の方法及び基準】 試験 80 点, 平常点 20 点 （出席・授業態度 10 点, 課題・小テスト 10 点） 計 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
地域理学療法実習	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
1 回	40	2 年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割を理解する。 【授業全体の内容の概要】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの実習を行う。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域で通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割がわかる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
	1 年生 前期に学生はに 40 時間を 1 施設（通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）で実習する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。 デイリーノートと感想文の提出を行う。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習Ⅰ（見学）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・洪澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数 40	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 ・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する ・社会や医療の中における理学療法の役割と責任を理解する ・社会人・職業人としての資質を養う ・理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める 【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・リハビリテーションの理念及び理学療法の概念・概略を整理し理解する ・理学療法を学ぶ上で基礎となる医学・医療知識を学び、一般社会的教養を身につける ・身体的および精神的自己管理能力を身につける			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に40～45時間を1施設で実習する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習Ⅱ（評価）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数 120	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 ・学内で学んだ知識・技術を、実習指導者の下で実際に症例に応用し、検査・測定する機会を得る 【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・基礎知識を元に理学療法について専門的知識の理解と評価技術の習得を図る ・日常の授業や学生生活の計画・実践の中から、問題解決能力・文章表現能力を身につける ・理学療法士の役割や専門的内容を、医療分野のみならず地域の保健・福祉分野まで含め理解する			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
2年次の所定の科目を履修した学生は、学年末に120時間を1施設で実施する。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。 臨床参加型実習チェックリストの提出。実習報告会を行う。 *実習前に、検査測定法を記憶するとともに反復練習をしておくこと。 （注意） 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
臨床実習Ⅲ（臨床）	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	実習	田端 吉彦・渋澤 里香・岡本 美幸 八木 佑介・尾関 直洋・藤原 美咲	有
授業の回数	時間数 640	学年・時期 3年・前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 ・臨床実習Ⅱ（評価）の経験を生かし、臨床の場で臨床実習指導者の下患者の検査・測定を行い、臨床実習指導者とともに臨床思考過程を学ぶ ・ゴール設定を踏まえ臨床実習指導者のもと治療場面に参加できる 【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・患者の総括的評価を学び治療を体験する ・専門職としての責任感・信頼性を養う ・人間観を含め調和のとれた社会人としての成長を目指す			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
内容・備考			
1 施設 320 時間の実習を 2 施設でおこなう。ただし、止むを得ない事情があり校長が認める場合は、学内実習に代えることがある。 臨床参加型実習チェックリストの提出を行う。 実習報告会を行う。 ＊実習前に、検査測定法を記憶するとともに反復練習をしておくこと。 （注意） 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。	